

# 竹早だよい

平成27年度11月号  
平成27年11月16日  
東京都立竹早高等学校  
文京区小石川4-2-1  
電話03(3811)6961

## 校歌の理解を深めよう

校長 高田 純一

今年度の「合唱コンクール」の課題曲は校歌になりました。現3年生が1年生だった2年前の課題曲も校歌でしたので、これで、全校生徒が一度は課題曲として校歌を歌うこととなります。今後も1年おきに校歌を課題曲にしていきたいと思ひます。

さて、歌を歌う際、歌詞の意味をしっかりと理解して歌うことが大切です。今号では、校歌の歌詞の意味について考えたいと思ひます。

希望にみちて あかるく —	作詞 木俣 修 作曲 平井 康三郎 (昭和28年3月制定) 二	三
ひまらや杉に新芽萌えて 窓は明り 声ははづむ 竹早よ わがこの高校 眞実一路 ここに学びて 幸を呼ばむ たづさへて友と 盡くるなし 篤き微笑 ああ 青春にひかりあれ	朝の空に風は通ひ 時計台は 夢をさそふ 竹早よ わがこの高校 清新潑刺 ここに汗して 理想に生きむ おのがじし高く 築きゆけ 永久の平和 ああ 新人に力あれ	茜の雲の果に清く 富士が嶺は 影と浮ぶ 竹早よ わがこの高校 協同親和 道を踏まへば いよよ映えむ かがやける伝統 いさぎよし 三つの春秋 ああ 若人に栄えあれ

まず、最初の大問題は「窓は明り」です。「窓明かり」には、室内から漏れる明かりと外から差し込む明かりの両用の意味があります。前者だとすると夜の情景になってしまいこの歌にはそぐわないものとなります。ここでは外光を意味すると考えるべきです。

「陽光溢れる窓辺から生徒たちの明るく弾んだ声が聞こえる」といった情景になります。次の問題は「わがこの高校」です。「コウコウ」というのは歌詞にしにくい言葉であり「われらが母校」などの方が納まりがいいのですが、どうしても「高校」と言いたかったのでしょう。校歌が構想され始めた昭和26年(制定は昭和28年)は、新制高校ができて間もないころです。「高校」という言葉が輝いていたのだと思ひます。

2番は朝の爽やかな情景を描いています。「おのがじし」は「各自それぞれに」の意で、古文単語としても覚えておきたいところです。

3番は、2番と対比させ夕景を描いています。西の空にシルエットとなってそびえる富士山の姿が目には浮かびます。「いよよ」は「いよいよ、いっそう」の意の副詞です。「春秋」は「年」のことであり、「三つの春秋」は「3年間の高校生活」を意味します。ここでも「3年制」の高校であるということが意識されていると思ひます。

なお、この校歌の作詞者である木俣修は、高名な国文学者であり歌人です。作曲者の平井康三郎は、『スキー』(山は白銀 朝日を浴びて 滑るスキーの風切る速さ…)や『とんぼのめがね』(とんぼのめがねは 水色めがね 青いお空を飛んだから…)などの作曲で知られています。

これからも竹早高校の校歌を大切にしていって歌い継いでいきたいものです。

## 第2回オープンデーを実施

11月14日（土）第2回オープンデーを実施しました。午前中の「体験入学」には授業体験4（社会・数学・英語・地学）部活体験4（箏曲・吹奏楽・男バス・サッカー）合計8講座を用意し、中学校3年生の皆さんに参加していただきました。高校の授業の一端に触れるとともに、高校生と一緒に部活動を行うことにより、竹早高校への期待がますます高まったのではないかと思います。

午後には、「第2回学校説明会」を行い、約400名の皆様にご参加いただきました。今回から入試制度が大きく変わることもあり、入試についての説明を丁寧に行いました。イントロで演奏をしてくれた箏曲部の皆さん、学校説明をしてくれた生徒会の皆さん、そして会場の準備や案内をしてくれた生徒の皆さん、本当にありがとうございました。皆さんの爽やかな姿や話に好感をもった中学生・保護者が多かったことが、アンケートからも読み取れました。

第3回の「学校説明会」は12月12日（土）の14：00からです。さらに多くの中学生に来校してもらえよう、皆さんからも声掛けをよろしくお願いいたします。

### <体験入学（数学）>



### <体験入学（社会）>



## 11月・12月の主な行事予定

### <11月>

16（月）国際理解講演会（1・2）

23（月）**勤労感謝の日**



### <12月>

8（火）期末考査始

11（金）期末考査終

12（土）第3回学校説明会

15（火）横浜国立大学学長講演会

21（月）芸術鑑賞教室（1・2）

23（水）**天皇誕生日**

25（金）終業式

26（土）冬季休業日始